ティーチング・ポートフォリオ（教育業績ファイル）

教員氏名	王　明君

主な担当科目	初級西洋音楽史,初級音楽（理論）,基礎音楽（理論）,基礎西洋音楽史,音楽基礎演習
シラバス	次ページをご参照ください

2022年の 教育目標・授業に 臨む姿勢	中国政府によるゼロコロナ政策が続き、留学生の入国時期にもバラつきがあり、横並びで一斉に同様の授業を行うことが難しい中で、昨年度と同様に不公平感を感じさせないこと、モチベーションの低下を防ぐこと、を第一に考え授業時間外もできる限りのフォローを行うことを目標として取り組みたい。
2022年の教育に関する自己評価	理解度が低い学生及び学修に関する不安を抱える学生に対しては業務時間外で微信（中国版のLINE）などを使用して個別に指導を行うなど、できる限りのフォローを行った。また、授業内容だけに留まらず生活面での不安にも応え、学修意欲を維持させるように努めた。

2022年のFD活動に関する自己評価	多くの留学生を担当する立場として、例年通り細かなケアを行い、学修意欲の減退から休学や中途退学に至らないよう授業のみならず生活面にも最新の注意を払い、学生からの個人的な相談にも多く対応した。
授業改善のために 取り入れた研修内容	FD研修会で障害など様々なバックグランドを持つ学生の増加により、教員側の学生に対する接し方など、更なる細かなケアや配慮が求められる時代になった、というお話があった。私の担当は留学生であるが、彼ら学生同士の中でも語学力の差などにより差別的な態度を取られて傷つく学生が一定数見受けられる。留学生もある意味弱い立場であるため、それぞれの違いを認め合い、快適な学修環境を提供できるよう努めた。

科目名－クラス名

初級西洋音楽史

曜日時限

月 5時限

担当教員

王　明君

授業形態	開講年次	開講期	単位数
講義	1～	前期	0

評価方法	定期試験				その他の試験	合計
評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
評価割合	0	0	0	0	0	0

教育到達目標と概要

この科目は研究生のための授業である。音楽家として生きていくために必要不可欠な西洋音楽の歴史の知識を身につけ、更に今後の研究に役立てることを狙いとする。

学修成果

学んでいる作品について、楽曲形式だけではなく、どのような時代背景から作曲されたものなのか、そして演奏の解釈にどのように生かすのかを考える力と洞察力が身に付く。

授業展開と内容

第1回　ガイダンス

第2回　西洋音楽の始まり（祈りの歌）

第3回　宮廷歌人の歌ーー心のうた

第4回　アルス・ノヴァからルネサンスへ

第5回　ブルゴーニュ学派、フランドル派

第6回　ルネサンス様式の確立

第7回　バロック器楽、宗教音楽

第8回　モノディ様式、オペラの誕生

第9回　オペラ「ブッファ」、オペラ「セリア」

第10回　モーツァルトオペラ

第11回　バロックから古典派

第12回　交響楽の誕生とソナタ形式

第13回　室内楽と独奏曲

第14回　前期内容の復習

第15回　まとめと小テスト

第16回

第17回

第18回

第19回

第20回

第21回

第22回

第23回

第24回

第25回

第26回

第27回

第28回

第29回

第30回

履修上の注意

特になし

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

授業で学んだことは必ず復習すること。また、母国で学習していた世界史との関連が深い科目であるので、（日本語で書かれた）ヨーロッパの歴史に関する本を読むことが望ましい。

教科書・参考書

（参考書）著者：岸本宏子、酒巻和子、他『つながりと流れがよくわかる西洋音楽の歴史』（アルテスパブリシング）

科目名－クラス名

初級西洋音楽史

曜日時限

月 5時限

担当教員

王　明君

授業形態	開講年次	開講期	単位数
講義	1～	後期	0

評価方法	定期試験				その他の試験	合計
評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
評価割合	0	0	0	0	0	0

教育到達目標と概要

この科目は研究生のための授業である。音楽家として生きていくために必要不可欠な西洋音楽の歴史の知識を身に付け、さらに今後の研究に役立てることを狙いとする。

学修成果

学んでいる作品について、楽曲形式だけではなく、どのような時代背景から作曲されたものなのか、そして演奏の解釈にどのように生かすのかを考える力と洞察力が身に付く。

授業展開と内容

第1回	前期の復習と小テストの解説
第2回	管弦楽曲ーー交響楽とコンチェルト
第3回	室内楽と独奏曲
第4回	ロマン派のオーケストラ音楽とピアノ音楽①
第5回	ロマン派のオーケストラ音楽とピアノ音楽②
第6回	ロマン派のオペラと歌曲①
第7回	ロマン派のオペラと歌曲②
第8回	ロマン派のオペラと歌曲③
第9回	ロマン派のオペラと歌曲④
第10回	国民楽派 ロシア、東欧
第11回	国民楽派 フランス、スペイン、イギリス
第12回	ロマン派の黄昏 R.シュトラウスとマーラー
第13回	近代の音楽
第14回	総復習
第15回	総復習と小テスト
第16回	
第17回	
第18回	
第19回	
第20回	
第21回	
第22回	
第23回	
第24回	
第25回	
第26回	
第27回	
第28回	
第29回	
第30回	

履修上の注意

特になし

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

授業で学んだことは必ず復習すること。また、母国で学習していた世界史との関連が深い科目であるので、（日本語で書かれた）ヨーロッパの歴史に関する本を読むことが望ましい。

教科書・参考書

（参考書）著者：岸本宏子、酒巻和子、他　『つながりと流れがよくわかる西洋音楽の歴史』（アルテスパブリシング）

科目名－クラス名

初級西洋音楽史　留学生

曜日時限

月 5時限

担当教員

王　明君

授業形態	開講年次	開講期	単位数
講義		後期	0

評価方法	定期試験				その他の試験	合計
評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
評価割合	0	0	0	0	0	0

教育到達目標と概要

この科目は留学生のための授業である。音楽家として生きていくために必要不可欠な西洋音楽の歴史の知識を身に付け、さらに今後の研究に役立てることを狙いとする。

学修成果

学んでいる作品について、楽曲形式だけでなく、どのような時代背景から作曲されたものなのか、そして演奏の解釈にどのように生かすのかを考える力と洞察力が身に付く。

授業展開と内容

第1回	前期の復習と小テストの解説
第2回	管弦楽曲ーー交響曲のとコンチェルト
第3回	室内楽と独奏曲
第4回	ロマン派のオーケストラ音楽とピアノ音楽①
第5回	ロマン派のオーケストラ音楽とピアノ音楽②
第6回	ロマン派のオペラと歌曲①
第7回	ロマン派のオペラと歌曲②
第8回	ロマン派のオペラと歌曲③
第9回	ロマン派のオペラと歌曲④
第10回	国民楽派 ロシア、東欧
第11回	国民楽派フランス、スペイン、イギリス
第12回	ロマン派の黄昏 R.シュトラウスとマーラー
第13回	近代の音楽
第14回	総復習
第15回	総復習と小テスト
第16回	
第17回	
第18回	
第19回	
第20回	
第21回	
第22回	
第23回	
第24回	
第25回	
第26回	
第27回	
第28回	
第29回	
第30回	

履修上の注意

特になし

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

授業で学んだことは必ず復習すること。また、母国で学習していた世界史との関連が深い科目であるので、（日本語で書かれた）ヨーロッパの歴史に関する本を読むことが望ましい。

教科書・参考書

（参考書）著者：岸本宏子、酒巻和子、他　『つながりと流れがよくわかる西洋音楽の歴史』（アルテスパブリシング）

科目名－クラス名

初級西洋音楽史　留学生

曜日時限

月 5時限

担当教員

王　明君

授業形態	開講年次	開講期	単位数
講義		前期	0

評価方法	定期試験				その他の試験	合計
評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
評価割合	0	0	0	0	0	0

教育到達目標と概要

この科目は研究生のための授業である。音楽家として生きていくために必要不可欠な西洋音楽の歴史の知識を身に付け、更に今後の研究に役立てることを狙いとする。

学修成果

学んでいる作品について、楽曲形式だけではなく、どのような時代背景から作曲されたものなのか、そして演奏の解釈にどのように生かすのかを考える力と洞察力が身に付く。

授業展開と内容

第1回　ガイダンス

第2回　西洋音楽の始まり（祈りの歌）

第3回　宮廷歌人の歌ーー心の歌

第4回　アルス・ノヴァからルネサンスへ

第5回　ブルゴーニュ学派、フランドル派

第6回　ルネサンス様式の確立

第7回　バロック器楽、宗教音楽

第8回　モノディ様式、オペラの誕生

第9回　オペラ「ブッファ」、オペラ「セリア」

第10回　モーツァルトオペラ

第11回　バロックから古典派

第12回　交響曲の誕生とソナタ形式

第13回　室内楽と独奏曲

第14回　前期内容の復習

第15回　まとめと小テスト

第16回

第17回

第18回

第19回

第20回

第21回

第22回

第23回

第24回

第25回

第26回

第27回

第28回

第29回

第30回

履修上の注意

特になし

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

授業で学んだことは必ず復習すること。また、母国で学習していた世界史との関連が深い科目であるので、ヨーロッパの歴史に関する本を読むことが望ましい。

教科書・参考書

（参考書）著者：岸本宏子、酒巻和子、他　『つながりと流れがよくわかる西洋音楽の歴史』（アルテスパブリシング）

科目名－クラス名

初級音楽（理論）

曜日時限

火 4時限

担当教員

王　明君

授業形態	開講年次	開講期	単位数
講義	1～	前期	0

評価方法	定期試験				その他の試験	合計
評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
評価割合	0	30	0	0	70	100

教育到達目標と概要

留学生として日本で学ぶ上で、且つ実際の音楽に関わる場面に必要な、主として楽曲の最も基礎的な知識を学び、技術・理論的な側面からのアプローチで音楽のルールと理論を身につける。授業では、トピックごとに演習を行い、さまざまな面から理論を理解しながら、実際に役立つ力を養うことを目指す。

学修成果

楽典の基礎について、日本語でもきちんと理解ができるようになる。レッスンに必要な知識、および『ハーモニー演習①』へスムーズに移行できる基本的な理論を身に付けることができる。

授業展開と内容

第1回	ガイダンス
第2回	五線譜、音部記号、譜表、音名
第3回	変化記号とその効力、異名同音
第4回	音符と休符
第5回	拍子とリズム
第6回	音程①：単音程
第7回	音程②：単音程と複音程
第8回	音程③：転回音程
第9回	省略記号、奏法記号
第10回	発想記号、その他の記号
第11回	長音階①：音階の仕込み
第12回	長音階②：シャープ系の音階
第13回	長音階③：フラット系の音階
第14回	総復習（リズム、音程、長音階等）と小テスト
第15回	小テストの解説および総まとめ
第16回	
第17回	
第18回	
第19回	
第20回	
第21回	
第22回	
第23回	
第24回	
第25回	
第26回	
第27回	
第28回	
第29回	
第30回	

履修上の注意

授業には積極的に参加すること。常に筆記用具と教科書、および五線紙を持参すること。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

必ず予習、復習を行うこと（合計60分）。理解できないことはそのままにせず、授業後に教員に質問すること。日頃から、レッスンなどの実技で学ぶ楽譜で確認するよう心掛けて下さい。

教科書・参考書

教科書：『実践　楽譜がよめる！　大人のための音楽ワーク　テキスト』（ヤマハミュージックコーポレーション）。その他、適宜プリントなどを配付する。

科目名－クラス名

初級音楽（理論）

曜日時限

火 4時限

担当教員

王　明君

授業形態	開講年次	開講期	単位数
講義	1～	後期	0

評価方法	定期試験				その他の試験	合計
評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
評価割合	0	30	0	0	70	100

教育到達目標と概要

留学生として日本で学ぶ上で、且つ実際の音楽に関わる場面に必要な、主として楽曲の最も基礎的な知識を学び、技術・理論的な側面からのアプローチで音楽のルールと理論を身につける。授業では、トピックごとに演習を行い、さまざまな面から理論を理解しながら、実際に役立つ力を養うことを目指す。

学修成果

楽典の基礎について、日本語でもきちんと理解ができるようになる。レッスンに必要な知識、および『ハーモニー演習①』にスムーズに移行できる理論を身につけることができる。

授業展開と内容

第1回　オリエンテーション：前期試験の解説と復習

第2回　音階について：長音階の復習

第3回　5度圏とは何か？：短音階の仕組み

第4回　短音階①：シャープ系の音階

第5回　短音階②：フラット系の音階

第6回　短音階③：五度圏について復習

第7回　移調と転調

第8回　近親調について

第9回　調判定と移調

第10回　和音①：３和音、７和音の種類とコードネーム

第11回　和音②：音階と和音（長調）

第12回　和音③：音階と和音（短調）

第13回　日本の音階とその他、総復習①：移調、和音を中心に

第14回　総復習②：総合問題に取り込む

第15回　総復習③：総合問題の解説とまとめ

第16回

第17回

第18回

第19回

第20回

第21回

第22回

第23回

第24回

第25回

第26回

第27回

第28回

第29回

第30回

履修上の注意

授業には積極的に参加すること。常に筆記用具と教科書、および五線紙を持参すること。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

必ず予習、復習を行うこと（合計60分）。理解できないことはそのままにせず、授業後に教員に質問すること。日頃から、レッスンなどの実技で学ぶ楽譜で確認するよう心掛けて下さい。

教科書・参考書

教科書：『実践　楽譜がよめる！　大人のための音楽ワーク　テキスト』（ヤマハミュージックメディアコーポレーション）。その他、適宜プリントなどを配付する。

科目名－クラス名

初級音楽理論　留学生Ａ

曜日時限

火 4時限

担当教員

王　明君

授業形態	開講年次	開講期	単位数
講義		通年	0

評価方法	定期試験				その他の試験	合計
評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
評価割合	70	0	0	0	30	100

教育到達目標と概要

留学生として日本で学ぶ上で、且つ実際の音楽に関わる場面に必要な、主として楽曲の最も基礎的な知識を学び、技術、理論的な側面からのアプローチで音楽のルールと理論を身につける。授業では、トピックごとに演習を行い、様々な面から理論を理解しながら、実際に役たつ力を養うことを目指す。

学修成果

楽典の基礎について、日本語でもきちんと理解ができるようになる。レッスンに必要な知識、および『ハーモニー演習』へスムーズに移行できる理論を身に付けることができる。

授業展開と内容

第1回　ガイダンス

第2回　五線譜、音部記号、譜表、音名

第3回　変化記号とその効力、異名同音

第4回　音符と休譜

第5回　拍子とリズム

第6回　音程①：単音程

第7回　音程②：単音程と複音程

第8回　音程③：回転音程

第9回　省略記号、奏法記号

第10回　発想記号、その他の記号

第11回　長音階①：音階の仕組み

第12回　長音階②：シャープ系の音階

第13回　長音階③：フラット系の音階

第14回　長音階④：５度圏　総復習：リズムを中心に

第15回　総復習：長音階を中心に　小テスト

第16回　小テストの解説

第17回　前期の復習と後期のガイダンス

第18回　短音階①：音階の仕組み

第19回　短音階②：シャープ系

第20回　短音階③フラット系

第21回　近親調について

第22回　調判定

第23回　調判定と移調

第24回　和音①：３和音の各種とコードネーム

第25回　和音②：７和音の各種とコードネーム

第26回　和音③：音階と和音（長調）

第27回　和音④：音階と和音（短調）

第28回　総復習①：調判定と移調、和音を中心に

第29回　総復習②：総合問題に取り組む

第30回　総復習③：総合問題の解説とまとめ

履修上の注意

授業に積極的に参加すること。教科書と五線紙を持参すること。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

必ず予習、復習を行うこと（合計60分）。理解できないことはそのままにせず、授業後に教員に質問すること。さらに授業で学んだ知識を、常にレッスンなどの実技で触れる楽曲で確認するよう心掛けてください。

教科書・参考書

教科書：『実践　楽譜がよめる！　大人のための音楽ワーク　テキスト』（ヤマハミュージックメディアコーポレーション）。その他、適宜プリントなどを配付する。

科目名－クラス名

基礎音楽（理論）

曜日時限

水 4時限

担当教員

王　明君

授業形態	開講年次	開講期	単位数
講義	1～	前期	0

評価方法	定期試験				その他の試験	合計
評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
評価割合	0	0	0	0	0	0

教育到達目標と概要

留学生として日本で学ぶ上に、且つ実際の音楽に関わる場面に必要な、主として楽曲の最も基礎的な知識を学び、技術、理論的な側面からのアプローチで音楽のルールと理論を身につける。授業では、トッピクごとに実習を行い、様々な面から理論を理解しながら、実際に役たつ力を養うことを目指す。

学修成果

楽典の基礎について、日本語でもきちんと理解ができるようになう。レッスンに必要な知識及び『ハーモニー演習①』へスムーズに移行できる理論を身につけることができる。

授業展開と内容

第1回	ガイダンス
第2回	五線譜、音部記号、譜表、音名
第3回	変化記号とその効力、異名同音
第4回	音符と休譜
第5回	拍子とリズム
第6回	音程①：単音程
第7回	音程②：複音程
第8回	音程③：回転音程
第9回	省略記号、奏法記号
第10回	発想記号、奏法記号
第11回	長音階①：音階の仕組み
第12回	長音階②：シャープ系の音階
第13回	長音階③：フラット系の音階
第14回	長音階④：５度圏　総復習：リズムを中心に
第15回	総復習：長音階を中心に　小テスト
第16回	
第17回	
第18回	
第19回	
第20回	
第21回	
第22回	
第23回	
第24回	
第25回	
第26回	
第27回	
第28回	
第29回	
第30回	

履修上の注意

授業には積極的に参加すること。常に筆記用具と教科書、及び五線紙を持参すること。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

必ず予習、復習を行うこと。理解できないことはそのままにせず、授業後に教員に質問すること。日頃から、レッスンなどの実技で学ぶ楽譜で確認するよう心掛けてください。

教科書・参考書

教科書：『楽譜がよめる！　大人のための音楽ワーク　テキスト』（ヤマハミュージックメディア）

科目名－クラス名

基礎音楽（理論）

曜日時限

水 4時限

担当教員

王　明君

授業形態	開講年次	開講期	単位数
講義	1～	後期	0

評価方法	定期試験				その他の試験	合計
評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
評価割合	0	0	0	0	0	0

教育到達目標と概要

留学生として日本で学ぶ上に、且つ実際の音楽に関わる場面に必要な、主として楽曲の最も基礎的な知識を学び、技術、理論的な側面からのアプローチで音楽のルールと理論を身につける。授業では、トピックごとに実習を行い、様々な面から理論を理解しながら、実際に役たつ力を養うことを目指す。

学修成果

楽典の基礎について、日本語でもきちんと理解ができるようになる。レッスンに必要な知識及び『ハーモニー演習』へスムーズに移行できる理論を身につけることができる。

授業展開と内容

第1回	小テストの解説
第2回	前期の復習と後期のガイダンス
第3回	短音階①：音階の仕組み
第4回	短音階②：シャープ系
第5回	短音階③：フラット系
第6回	短音階及び５度圏
第7回	移調と転調
第8回	近親調について
第9回	調判定
第10回	和音①：３和音の各種とコードネーム
第11回	和音②：７和音の各種とコードネーム
第12回	和音③：音階と和音（長調）
第13回	和音④：音階と和音（短調）
第14回	総復習と授業内小テスト
第15回	授業内小テストの解説、およびまとめ
第16回	
第17回	
第18回	
第19回	
第20回	
第21回	
第22回	
第23回	
第24回	
第25回	
第26回	
第27回	
第28回	
第29回	
第30回	

履修上の注意

特になし

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

必ず予習、復習を行うこと。理解できないことはそのままにせず、授業後に教員に質問すること。日頃から、レッスンなどの実技で学ぶ楽譜で確認するよう心掛けてください。

教科書・参考書

教科書：『楽譜がよめる！　大人のための音楽ワーク　テキスト』（ヤマハミュージックメディア）

科目名－クラス名

基礎音楽理論　留学生Ｂ

曜日時限

水 4時限

担当教員

王　明君

授業形態	開講年次	開講期	単位数
講義		通年	0

評価方法	定期試験				その他の試験	合計
評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
評価割合	70	0	0	0	30	100

教育到達目標と概要

留学生として日本で学ぶ上で、且つ実際の音楽に関わる場面に必要な、主として楽曲の最も基礎的な知識を学び、技術、理論的な側面からのアプローチで音楽のルールと理論を身につける。授業では、トピックごとに演習を行い、様々な面から理論を理解しながら、実際に役たつ力を養うことを目指す。

学修成果

楽典の基礎について、日本語でもきちんと理解ができるようになる。レッスンに必要な知識、および『ハーモニー演習』へスムーズに移行できる理論を身に付けることができる。

授業展開と内容

第1回　ガイダンス

第2回　五線譜、音部記号、譜表、音名

第3回　変化記号とその効力、異名同音

第4回　音符と休譜

第5回　拍子とリズム

第6回　音程①：単音程

第7回　音程②：単音程と複音程

第8回　音程③：回転音程

第9回　省略記号、奏法記号

第10回　発想記号、その他の記号

第11回　長音階①：音階の仕組み

第12回　長音階②：シャープ系の音階

第13回　長音階③：フラット系の音階

第14回　長音階④：５度圏　総復習：リズムを中心に

第15回　総復習：長音階を中心に　小テスト

第16回　小テストの解説

第17回　前期の復習と後期のガイダンス

第18回　短音階①：音階の仕組み

第19回　短音階②：シャープ系

第20回　短音階③フラット系

第21回　近親調について

第22回　調判定

第23回　調判定と移調

第24回　和音①：３和音の各種とコードネーム

第25回　和音②：７和音の各種とコードネーム

第26回　和音③：音階と和音（長調）

第27回　和音④：音階と和音（短調）

第28回　総復習①：調判定と移調、和音を中心に

第29回　総復習②：総合問題に取り組む

第30回　総復習③：総合問題の解説とまとめ

履修上の注意

授業に積極的に参加すること。教科書と五線紙を持参すること。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

必ず予習、復習を行うこと（合計60分）。理解できないことはそのままにせず、授業後に教員に質問すること。さらに授業で学んだ知識を、常にレッスンなどの実技で触れる楽曲で確認するよう心掛けてください。

教科書・参考書

教科書：『実践　楽譜がよめる！　大人のための音楽ワーク　テキスト』（ヤマハミュージックメディアコーポレーション）。その他、適宜プリントなどを配付する。

科目名－クラス名

基礎西洋音楽史

曜日時限

水 5時限

担当教員

王　明君

授業形態	開講年次	開講期	単位数
講義	1～	後期	0

評価方法	定期試験				その他の試験	合計
評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
評価割合	0	0	0	0	0	0

教育到達目標と概要

この科目は研究生のための授業である。大学院生を目指そうとしている留学生にとって、必要不可欠なクラシック音楽の知識を身に付け、今後の研究に役立てることを狙いとする。

学修成果

学んでいる作品についての楽曲形式や和声などを理解し、それを器楽演奏や歌唱の解釈にどのように活かすのかを考える力と洞察力が身に付く。

授業展開と内容

第1回　前期の復習と小テストの解説

第2回　ロマン派の音楽②（シューマン）

第3回　ロマン派の音楽③（シューマン）

第4回　ショパンの音楽①

第5回　ショパンの音楽②

第6回　ブラムスの音楽

第7回　ベルリオーズの音楽

第8回　フランクの音楽

第9回　リストの音楽①

第10回　リストの音楽②

第11回　ヴェルディの音楽

第12回　ワーグナーの音楽

第13回　ビゼーの音楽

第14回　総復習

第15回　総復習とテスト

第16回

第17回

第18回

第19回

第20回

第21回

第22回

第23回

第24回

第25回

第26回

第27回

第28回

第29回

第30回

履修上の注意

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

授業で学んだことは必ず復習すること。また、母国で学習していた世界史との関連性が深い科目であるので、日本語で書かれたヨーロッパの歴史に関する本を読むことが望ましい。

教科書・参考書

（参考書）著者：池内友次郎、長谷川良夫、他『和声　理論と実習　I』

科目名－クラス名

基礎西洋音楽史

曜日時限

水 5時限

担当教員

王　明君

授業形態	開講年次	開講期	単位数
講義	1～	前期	0

評価方法	定期試験				その他の試験	合計
評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
評価割合	0	0	0	0	0	0

教育到達目標と概要

この科目は研究生のための授業である。大学院生を目指そうとしている留学生にとって、必要不可欠なクラシック音楽の知識を身に付け、今後の研究に役立てることを狙いとする。

学修成果

学んでいる作品についての楽曲形式や和声などを理解し、それを器楽演奏や歌唱の解釈にどのように活かすのかを考える力と洞察力が身に付く。

授業展開と内容

第1回　ガイダンス

第2回　バロックの音楽①（ヴィヴァルディ）

第3回　バロックの音楽②（J.Sバッハ）

第4回　バロックの音楽③

第5回　ヘンデルの音楽

第6回　古典派の音楽①（ハイドン）

第7回　古典派の音楽②（モーツァルト）

第8回　古典派の音楽③（モーツァルト）

第9回　古典派の音楽④（モーツァルト）

第10回　ベートーヴェンの音楽①

第11回　ベートーヴェンの音楽②

第12回　ベートーヴェンの音楽③

第13回　ロマン派の音楽①（シューベルト）

第14回　前期の復習

第15回　前期小テスト

第16回

第17回

第18回

第19回

第20回

第21回

第22回

第23回

第24回

第25回

第26回

第27回

第28回

第29回

第30回

履修上の注意

特になし

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

授業で学んだことは必ず復習すること。また、母国で学習していた世界史との関連が深い科目であるので、日本語で書かれたヨーロッパの歴史に関する本を読むことが望ましい。

教科書・参考書

（参考書）著者：池内友次郎、長谷川良夫、他『和声　理論と実習　I』

科目名－クラス名

基礎西洋音楽史　留学生

曜日時限

水 5時限

担当教員

王　明君

授業形態	開講年次	開講期	単位数
講義		前期	0

評価方法	定期試験				その他の試験	合計
評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
評価割合	0	0	0	0	0	0

教育到達目標と概要

この科目は研究生のための授業である。大学院生を目指そうとしている留学生にとって、必要不可欠なクラシック音楽の知識を身に付け、今後の研究に役立てることを狙いとする。

学修成果

学んでいる作品についての楽曲形式や和声などを理解し、それを楽器演奏や歌唱の解釈にどのように活かすのかを考える力と洞察力が身に付く。

授業展開と内容

第1回　ガイダンス

第2回　バロックの音楽①（ヴィヴァルディ）

第3回　バロックの音楽②（J.Sバッハ）

第4回　バロックの音楽③（J.Sバッハ）

第5回　ヘンデルの音楽

第6回　古典派の音楽①（ハイドン）

第7回　古典派の音楽②（モーツァルト）

第8回　古典派の音楽③（モーツァルト）

第9回　古典派の音楽④（モーツァルト）

第10回　ベートーヴェンの音楽①

第11回　ベートーヴェンの音楽②

第12回　ベートーヴェンの音楽③

第13回　ロマン派の音楽①（シューベルト）

第14回　前期の復習

第15回　前期小テスト

第16回

第17回

第18回

第19回

第20回

第21回

第22回

第23回

第24回

第25回

第26回

第27回

第28回

第29回

第30回

履修上の注意

特になし

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

授業で学んだことは必ず復習すること。また、母国で学習していた世界史との関連が深い科目であるので、日本語で書かれたヨーロッパの歴史に関する本を読むことが望ましい。

教科書・参考書

（参考書）著者：池内友次郎、長谷川良夫、他『和声　理論と実習　I』

科目名－クラス名

基礎西洋音楽史　留学生

曜日時限

水 5時限

担当教員

王　明君

授業形態	開講年次	開講期	単位数
講義		後期	0

評価方法	定期試験				その他の試験	合計
評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
評価割合	0	0	0	0	0	0

教育到達目標と概要

この科目は研究生のための授業である。大学院生を目指そうとしている留学生にとって、必要不可欠なクラシック音楽の知識を身に付け、今後の研究に役立てることを狙いとする。

学修成果

学んでいる作品についての楽曲形式や和声などを理解し、それを器楽演奏や歌唱の解釈にどのように活かすのかを考える力と洞察力が身に付く。

授業展開と内容

第1回　前期の復習と小テストの解説

第2回　ロマン派の音楽②（シューマン）

第3回　ロマン派の音楽③（シューマン）

第4回　ショパンの音楽①

第5回　ショパンの音楽②

第6回　ブラムスの音楽

第7回　ベルリオーズの音楽

第8回　フランクの音楽

第9回　リストの音楽①

第10回　リストの音楽②

第11回　ヴェルディの音楽

第12回　ワーグナーの音楽

第13回　ビゼーの音楽

第14回　総復習

第15回　総復習とテスト

第16回

第17回

第18回

第19回

第20回

第21回

第22回

第23回

第24回

第25回

第26回

第27回

第28回

第29回

第30回

履修上の注意

特になし

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

授業で学んだことは必ず復習すること。また、母国で学習していた世界史との関連性が深い科目であるので、日本語で書かれたヨーロッパの歴史に関する本を読むことが望ましい。

教科書・参考書

（参考書）著者：池内友次郎、長谷川良夫、他『和声　理論と実習　I』

科目名－クラス名

音楽基礎演習　留学生Ａ

曜日時限

火 4時限

担当教員

王　明君

授業形態	開講年次	開講期	単位数
演習	1～	通年	2

評価方法	定期試験				その他の試験	合計
評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
評価割合	70	0	0	0	30	100

教育到達目標と概要

留学生として日本で学ぶ上で、且つ実際の音楽に関わる場面に必要な、主として楽曲の最も基礎的な知識を学び、技術、理論的な側面からのアプローチで音楽のルールと理論を身につける。授業では、トピックごとに演習を行い、様々な面から理論を理解しながら、実際に役たつ力を養うことを目指す。

学修成果

楽典の基礎について、日本語でもきちんと理解ができるようになる。レッスンに必要な知識、および『ハーモニー演習』へスムーズに移行できる理論を身に付けることができる。

授業展開と内容

第1回　ガイダンス

第2回　五線譜、音部記号、譜表、音名

第3回　変化記号とその効力、異名同音

第4回　音符と休譜

第5回　拍子とリズム

第6回　音程①：単音程

第7回　音程②：単音程と複音程

第8回　音程③：回転音程

第9回　省略記号、奏法記号

第10回　発想記号、その他の記号

第11回　長音階①：音階の仕組み

第12回　長音階②：シャープ系の音階

第13回　長音階③：フラット系の音階

第14回　長音階④：５度圏　総復習：リズムを中心に

第15回　総復習：長音階を中心に　小テスト

第16回　小テストの解説

第17回　前期の復習と後期のガイダンス

第18回　短音階①：音階の仕組み

第19回　短音階②：シャープ系

第20回　短音階③フラット系

第21回　近親調について

第22回　調判定

第23回　調判定と移調

第24回　和音①：３和音の各種とコードネーム

第25回　和音②：７和音の各種とコードネーム

第26回　和音③：音階と和音（長調）

第27回　和音④：音階と和音（短調）

第28回　総復習①：調判定と移調、和音を中心に

第29回　総復習②：総合問題に取り組む

第30回　総復習③：総合問題の解説とまとめ

履修上の注意

授業に積極的に参加すること。教科書と五線紙を持参すること。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

必ず予習、復習を行うこと（合計60分）。理解できないことはそのままにせず、授業後に教員に質問すること。さらに授業で学んだ知識を、常にレッスンなどの実技で触れる楽曲で確認するよう心掛けてください。

教科書・参考書

教科書：『実践　楽譜がよめる！　大人のための音楽ワーク　テキスト』（ヤマハミュージックメディアコーポレーション）。その他、適宜プリントなどを配付する。

科目名－クラス名

音楽基礎演習　留学生Ｂ

曜日時限

水 4時限

担当教員

王　明君

授業形態	開講年次	開講期	単位数
演習	1～	通年	2

評価方法	定期試験				その他の試験	合計
評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
評価割合	70	0	0	0	30	100

教育到達目標と概要

留学生として日本で学ぶ上で、且つ実際の音楽に関わる場面に必要な、主として楽曲の最も基礎的な知識を学び、技術、理論的な側面からのアプローチで音楽のルールと理論を身につける。授業では、トピックごとに演習を行い、様々な面から理論を理解しながら、実際に役たつ力を養うことを目指す。

学修成果

楽典の基礎について、日本語でもきちんと理解ができるようになる。レッスンに必要な知識、および『ハーモニー演習』へスムーズに移行できる理論を身に付けることができる。

授業展開と内容

第1回　ガイダンス

第2回　五線譜、音部記号、譜表、音名

第3回　変化記号とその効力、異名同音

第4回　音符と休譜

第5回　拍子とリズム

第6回　音程①：単音程

第7回　音程②：単音程と複音程

第8回　音程③：回転音程

第9回　省略記号、奏法記号

第10回　発想記号、その他の記号

第11回　長音階①：音階の仕組み

第12回　長音階②：シャープ系の音階

第13回　長音階③：フラット系の音階

第14回　長音階④：５度圏　総復習：リズムを中心に

第15回　総復習：長音階を中心に　小テスト

第16回　小テストの解説

第17回　前期の復習と後期のガイダンス

第18回　短音階①：音階の仕組み

第19回　短音階②：シャープ系

第20回　短音階③フラット系

第21回　近親調について

第22回　調判定

第23回　調判定と移調

第24回　和音①：３和音の各種とコードネーム

第25回　和音②：７和音の各種とコードネーム

第26回　和音③：音階と和音（長調）

第27回　和音④：音階と和音（短調）

第28回　総復習①：調判定と移調、和音を中心に

第29回　総復習②：総合問題に取り組む

第30回　総復習③：総合問題の解説とまとめ

履修上の注意

授業に積極的に参加すること。教科書と五線紙を持参すること。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

必ず予習、復習を行うこと（合計60分）。理解できないことはそのままにせず、授業後に教員に質問すること。さらに授業で学んだ知識を、常にレッスンなどの実技で触れる楽曲で確認するよう心掛けてください。

教科書・参考書

教科書：『実践　楽譜がよめる！　大人のための音楽ワーク　テキスト』（ヤマハミュージックメディアコーポレーション）。その他、適宜プリントなどを配付する。

科目名－クラス名

音楽基礎演習　留学生Ａ

曜日時限

火 4時限

担当教員

王　明君

授業形態	開講年次	開講期	単位数
演習	1～	通年	2

評価方法	定期試験				その他の試験	合計
評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
評価割合	70	0	0	0	30	100

教育到達目標と概要

留学生として日本で学ぶ上で、且つ実際の音楽に関わる場面に必要な、主として楽曲の最も基礎的な知識を学び、技術、理論的な側面からのアプローチで音楽のルールと理論を身につける。授業では、トピックごとに演習を行い、様々な面から理論を理解しながら、実際に役たつ力を養うことを目指す。

学修成果

楽典の基礎について、日本語でもきちんと理解ができるようになる。レッスンに必要な知識、および『ハーモニー演習』へスムーズに移行できる理論を身に付けることができる。

授業展開と内容

第1回　ガイダンス

第2回　五線譜、音部記号、譜表、音名

第3回　変化記号とその効力、異名同音

第4回　音符と休譜

第5回　拍子とリズム

第6回　音程①：単音程

第7回　音程②：単音程と複音程

第8回　音程③：回転音程

第9回　省略記号、奏法記号

第10回　発想記号、その他の記号

第11回　長音階①：音階の仕組み

第12回　長音階②：シャープ系の音階

第13回　長音階③：フラット系の音階

第14回　長音階④：５度圏　総復習：リズムを中心に

第15回　総復習：長音階を中心に　小テスト

第16回　小テストの解説

第17回　前期の復習と後期のガイダンス

第18回　短音階①：音階の仕組み

第19回　短音階②：シャープ系

第20回　短音階③フラット系

第21回　近親調について

第22回　調判定

第23回　調判定と移調

第24回　和音①：３和音の各種とコードネーム

第25回　和音②：７和音の各種とコードネーム

第26回　和音③：音階と和音（長調）

第27回　和音④：音階と和音（短調）

第28回　総復習①：調判定と移調、和音を中心に

第29回　総復習②：総合問題に取り組む

第30回　総復習③：総合問題の解説とまとめ

履修上の注意

授業に積極的に参加すること。教科書と五線紙を持参すること。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

必ず予習、復習を行うこと（合計60分）。理解できないことはそのままにせず、授業後に教員に質問すること。さらに授業で学んだ知識を、常にレッスンなどの実技で触れる楽曲で確認するよう心掛けてください。

教科書・参考書

教科書：『実践　楽譜がよめる！　大人のための音楽ワーク　テキスト』（ヤマハミュージックメディアコーポレーション）。その他、適宜プリントなどを配付する。

科目名－クラス名

音楽基礎演習　留学生Ｂ

曜日時限

水 4時限

担当教員

王　明君

授業形態	開講年次	開講期	単位数
演習	1～	通年	2

評価方法	定期試験				その他の試験	合計
評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
評価割合	70	0	0	0	30	100

教育到達目標と概要

留学生として日本で学ぶ上で、且つ実際の音楽に関わる場面に必要な、主として楽曲の最も基礎的な知識を学び、技術、理論的な側面からのアプローチで音楽のルールと理論を身につける。授業では、トピックごとに演習を行い、様々な面から理論を理解しながら、実際に役たつ力を養うことを目指す。

学修成果

楽典の基礎について、日本語でもきちんと理解ができるようになる。レッスンに必要な知識、および『ハーモニー演習』へスムーズに移行できる理論を身に付けることができる。

授業展開と内容

第1回　ガイダンス

第2回　五線譜、音部記号、譜表、音名

第3回　変化記号とその効力、異名同音

第4回　音符と休譜

第5回　拍子とリズム

第6回　音程①：単音程

第7回　音程②：単音程と複音程

第8回　音程③：回転音程

第9回　省略記号、奏法記号

第10回　発想記号、その他の記号

第11回　長音階①：音階の仕組み

第12回　長音階②：シャープ系の音階

第13回　長音階③：フラット系の音階

第14回　長音階④：５度圏　総復習：リズムを中心に

第15回　総復習：長音階を中心に　小テスト

第16回　小テストの解説

第17回　前期の復習と後期のガイダンス

第18回　短音階①：音階の仕組み

第19回　短音階②：シャープ系

第20回　短音階③フラット系

第21回　近親調について

第22回　調判定

第23回　調判定と移調

第24回　和音①：３和音の各種とコードネーム

第25回　和音②：７和音の各種とコードネーム

第26回　和音③：音階と和音（長調）

第27回　和音④：音階と和音（短調）

第28回　総復習①：調判定と移調、和音を中心に

第29回　総復習②：総合問題に取り組む

第30回　総復習③：総合問題の解説とまとめ

履修上の注意

授業に積極的に参加すること。教科書と五線紙を持参すること。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

必ず予習、復習を行うこと（合計60分）。理解できないことはそのままにせず、授業後に教員に質問すること。さらに授業で学んだ知識を、常にレッスンなどの実技で触れる楽曲で確認するよう心掛けてください。

教科書・参考書

教科書：『実践　楽譜がよめる！　大人のための音楽ワーク　テキスト』（ヤマハミュージックメディアコーポレーション）。その他、適宜プリントなどを配付する。

2022年度(後期・通年)「学生による授業評価アンケート」結果に対する授業改善計画書

教員コード：2609　教員名：王　明君

１）評価結果に対する所見

現在私は大学院外国人留学生の西洋音楽史、大学、短期大学外国人留学生の音楽基礎演習、また、外国人留学生研究生の基礎西洋音楽史の授業も担当しています。
今回の授業アンケートの結果をどのように見て、どのように理解し、そして今後の授業に対してどのように活かして行けば良いのか、を考えなくてはいけないのですが、学生たちが授業に対して何を望んでいるのか、何を考えているのか、正直に申し上げて全てを理解するのは難しく、未だになかなか掴めていない部分がたくさんあります。また、留学生により個々の日本語能力、或いは専攻科目の違いから、教養科目の必要性に対しての認識度にかなりの差があるように感じます。しかし、アンケートの結果そのものに対して、ある程留学生たちの意見を窺い知ることが出来たのではないかと思っております。

日本のみならず世界中の音大において、教養科目の取り入れ方や、授業に関する内容及び形式は、国または学校によって考え方が大きく異なります。しかし教養科目そのものに対して（正確な数値データではありませんが)、少なくとも半数以上の学生が教養科目に関して興味を示していないようです。

私のクラスを履修しているのは殆どが中国から来た留学生です。彼らが来日する前に受けた教育は日本の教育とは大きく異なります。例え音楽大学や芸術高校などを卒業していたとしても、日本で常識と思われている音楽史及び音楽理論に関しては日本で学ぶ内容の３分の１若しくはそれ以下であり、残りは自国の伝統音楽に関する内容です。そのような背景もあり、入学前に彼らが想像している音大での授業と実際に受けている授業では大きなズレがあります。特に、器楽や声楽（ポップスを含む）を専攻している学生の中には専門実技だけ習得すれば良い、なぜこのような演奏と直接関わりのない座学を受けなくてはならないのか、という気持ちをあからさまに表す学生も多く見受けられます。

２）要望への対応・改善方策

研究生については入学時期に半期間の違いがあるにも関わらず全員が同じクラスで学ぶ為、教員としては精一杯のフォローを考えておりますが、なかなか理想通りに進まないという現実があります。学生がどのような気持ちなのかを更に知るために、授業外に学生から生の声を聞く時間を多く設けておりますが、特に多いのは「せっかくお金を使って音楽大学に留学したのだから、もっと実技に関する科目を多く受けたい」という意見です。

今後、私の授業では幸い言葉が通じるという利点を活かし、西洋音楽史では日本の社会科に於ける日本史と世界史の両立の良さを取り入れ、例えば芸術歌曲の項目に関してはドイツリートの説明のみならず、日本歌曲、更には中国の歌曲も同時に説明するなど、興味を引き出しながら理解を深めさせるような授業進行を考えたいと思います。

３）今後の課題

音楽基礎演習ではテキストそのままの内容ですと既に学んだことがある学生はすぐに退屈そうな表情になってしまうため、工夫が必要だと日頃感じております。日本人は満点を取れる実力でない限り「もう知っている」「全て学んだ」という態度にはなりませんが中国人はそれが５０点に満たない理解であっても「やったことがある」「もう既に知っている」と堂々と言う国民性です。それは大国の歴史上、大きく見せないと生きていけなかった歴史的背景もありますが、そのような特性も考慮しながら、彼らが興味を持っている楽曲などを使用して、この理論が実際どのように役に立つのか、という伝え方をしていきたいと考えています。

以　上